

令和7年度上大久保中学校だより
上中だより
2学期特別号

令和7年12月24日(水)発行

学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 Tel.855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

「無用の用」 校長 高久 正行

本日、2学期80日間の終業式を無事迎えることができました。保護者の皆様におかれましては、重ね重ね、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。2学期は、合唱コンクールをはじめ、1年生「上野・浅草校外学習」、2年生「未来くるワーク体験」、7組「キッザニア校外学習」のような学年ごとの行事も行われました。3年生は進路決定に向け、日々の勉強に加え、多くの情報収集にも力を入れてきたことでしょう。1年で最も長い2学期ではありますが、体感的にはとても短く感じる生徒も多かったのではないかと思います。様々な取組を通して、生徒一人ひとりが成長し、今後の生活に活かしてくれることを期待しています。

先日、日本漢字能力検定協会が選んだ「今年の漢字」が発表され、1位は「熊」、わずか180票の差で2位は「米」、3位は「高」という結果でした。今年も残すところあと1週間となりましたが、ご家庭でもこの2025年(令和7年)がどのような年だったのか(どんなことに努力し、どんなことに課題があったのか等)を振り返るとともに、来年の抱負について語り合う場をもっていただければ幸いです。

本日の終業式の式辞において、「無用の用(むようのよう)」という言葉について話をしました。これは、今年のノーベル化学賞を受賞した 北川 進 京都大学特別教授が、自身の研究哲学として掲げている言葉で、中国の思想家である莊子の言葉です。「無用の用」とは、一見役に立たない、無駄に見えるものの中にこそ、真に重要な価値や役割があるという意味で、世の中の役に立つものばかりが大切なのではなく、無駄に思える空間や存在こそが全体を成り立てるという考え方です。北川教授は、一見何もない「空間(穴)」に価値を見出し、多数の微細な穴を持つ新材料「金属有機構造体(MOF)」を開発しましたが、周囲の批判もある中で、「無用なものなど存在しない」と信じ、研究を続けたそうです。「無用の用」についての最近の解釈は、現代社会は「有用性」ばかりを追求しがちですが、すぐには役立たないような「無用」なもの(趣味、余白の時間、多様な考え方など)こそが、人生を豊かにし、革新的なアイデアの源泉となったり、人間性を深めたりする本質的な価値を持つ考え方として再評価されているそうです。結果にはすぐつながることはなかなか難しいかもしませんが、自分で決めたことに対して真摯に取り組む姿勢は、我々教職員も認めていきたいと思っています。

今年も大変お世話になりました。来年も引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願ひいたします。まだまだ寒い日は続きますが、ご自愛いただき、良いお年をお迎えください。



上チャレ書初め講習会!!

12月13日(土)に、「上チャレ書初め講習会」が行われました。この講習会には、講師として、例年、埼玉大学と浦和北高校の書道部の皆さんをお招きしています。今回は、埼玉大学から2名の大学生、浦和北高校から生徒2名と顧問の先生1名の計5名の皆様にご指導いただきました。今年も、上チャレ参加者に加え、部活単位での参加もあり、およそ50名の生徒が真剣な表情で書初めに取り組んでいました。



みんなの防災まつり～炊き出しミニカレー作り!!～

12月20日(土)に、レッズランドにおいて「第2回みんなの防災まつり」が開催され、今年も上中生4名がさいたま市備蓄用アルファ米を使った炊き出しミニカレー作りに取り組みました。試食用80食分の用意に向け、大量の野菜や肉を切ったり、アルファ米にお湯を加えてご飯に戻したりと約2時間休む暇もなく作業に当たっていました。このカレーの試食を楽しみにしててくれた方々が多く、一時は長い行列になりましたが、協力しながらカレーの配膳も行うことができました。試食をされた方々からも、「おいしい!!」という声が多く聞かれ、炊き出しに参加した生徒たちからも「楽しかった！」という言葉がありました。